

# 社会医療法人美杉会 佐藤病院を受診された患者さんへ

2023.7.26

<p>当院は、下記の研究を実施しております。この研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用または提供することを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。</p>	
1. 研究課題名	骨粗鬆症性椎体骨折に対する骨粗鬆症治療薬の効果の検討
2. 代表者名	嶋 靖子
3. 共同代表者名	なし
4. 実施事項等の概要	<p>受傷4週間以内の新鮮な骨粗鬆症性椎体骨折（以下椎体骨折）症例に対して骨形成促進剤であるロモソズマブを使用した群とテリパラチドを使用した群で治療介入後に1年間の続発性椎体骨折の発生率と骨癒合までの期間を比較する。</p>
5. 実施事項等の対象及び実施場所	佐藤病院整形外科
6. 本課題実施の医学的・医療的意義	<p>高齢者の骨折は要介護の原因の常に上位に位置しており、健康寿命の延伸のためには高齢者の骨折を予防することが重要である。椎体骨折（一次骨折）を発症すると脊椎の湾曲が変化することで転倒しやすくなり大腿骨近位部骨折（二次骨折）を発症するリスクが非常に高まる。そのため早期に椎体の圧潰を進行させずに椎体骨折を治癒させ、続発性骨折を発症させにくい薬剤を選択する必要がある。</p>
7. 研究の対象	佐藤病院整形外科外来患者
8. 研究目的	ロモソズマブを使用した群とテリパラチドを使用した群で椎体骨折3か月時点での骨癒合の状態と1年間の続発性椎体骨折の発生率を比較検討する
9. 研究方法	それぞれの群に対してMRI（新鮮な骨折かどうかの判断のため）、骨密度、レントゲン、採血等を施行して骨癒合までの期間と続発性椎体骨折の発生状況を調べる。
10. 外部への情報の提供	レントゲンでの椎体の圧潰の程度や骨癒合の状態の評価は恣意性を排除するため他病院整形外科医に評価依頼する予定である
11. 研究の資金源（利益相反）	本研究に関連し、開示すべき利益相反はありません
12. 研究期間	治療介入より1年間
13. 倫理的配慮について	<p>介入はそれぞれの群において日常診療で行われる検査であるためオプトアウトの形で患者のデータを使用する拒否する機会を与える。</p> <p>個人情報等は全て匿名化し、その他個人を同定できる可能性のあるすべての情報を削除する。</p>
問い合わせ先	佐藤病院 地域医療連携室 (代表) 072-850-8711